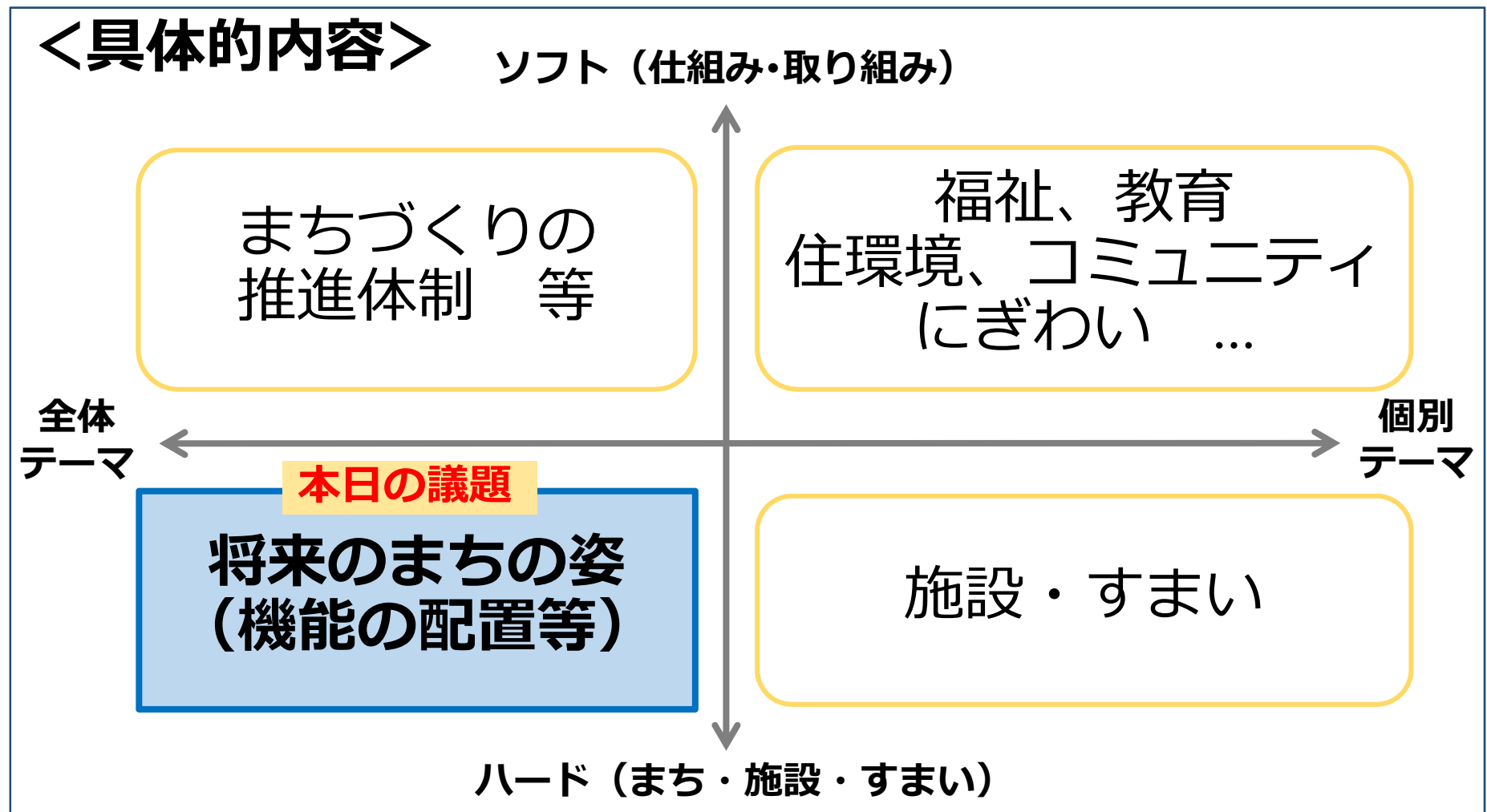


将来のまちの姿（機能の配置など）について

議論のためのたたき台

1. まちづくり構想に向けて、考えるべきこと

まちづくりの目標・理念（大切な目線など）



2. これまでの振り返り

<大切な目線>

- ① できることから「**段階的**」に。
- ② 「地域住民」と「これから来る住民」の**くらし第一**。
- ③ 基本は「**コミュニティ**」。多様な人を受け入れ・サポート。
- ④ 「地域」「市」「学校」「民間事業者」の「**協働型**」で。
- ⑤ 次世代の子ども・若者を地域一丸で**呼び込み・育て・交流**。

<取組みの方向性>

まずはできることから...

取組案1 市営住宅の改修 + 若者・子育て世帯を呼び込み・支援

市（改修・ルール変更等）+ 地域（利用・サポート活動）の**協働**

①市営住宅空き家改修（若者入居） 	②空きスペース活用（居場所づくり） 	③地域活動（子育て支援・多世代交流） 
--	---	---

⇒居場所づくりプロジェクトを試行中！

中長期の取り組み

取組案2 多世代が住む・交流する拠点

- * 多世代住宅（市営 + 民間）
- * 子育て・福祉・交流等の**複合施設**
- * 公園・安全な**歩行者空間**

自然に集まる場を
まちの中心に！

まとまった空間のある**和泉第一**が候補



2. これまでの振り返り

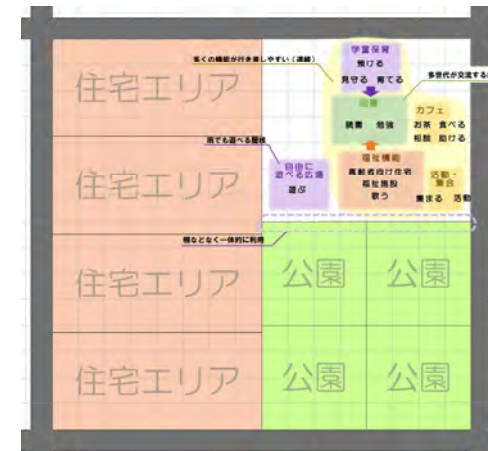
＜このまちに必要な生活機能＞

- ①居場所（いつでも、だれでも使える） …多目的スペースとパブリックスペース
- ②図書館、勉強しやすい場所（家ではリビングが勉強に最適）
- ③相談・サロン機能（解決できる、支えてくれる、やりがいがある）
- ④高齢者のための介護施設、医療施設など
- （⑤働く場 … 通勤距離を短く）
- ⑥日常購買、飲食など＋駐車場
- ⑦観光資源
- ⑧子どもがボール遊びもできる公園

＜サービス・施設のつくり方＞

- ①コンパクトで多機能
- ②地域で運営
- ③みんなが自然に交流
（心のバリアフリー、関わりやすい）
- ④継続できる仕組み
- ⑤安全に

＜「多世代交流拠点」のイメージ共有（例）＞



3. 将来のまちの姿（機能の配置等）を考える視点

公共施設再編（市営住宅・学校・施設）の機会を活かす



- ・再編後の跡地等で、「**まちの核**」（まちに必要な機能の拠点）をつくる。
- ・「**核**」をつなぐことで、まちの機能・魅力を向上させ、さらには周辺への波及を図っていく。

そのためには...



- ⇒ 立地に応じて「まちの核」となる機能を見定める。
- ⇒ 民間事業者の動向を考慮する。
- ⇒ 段階的に考える（＝公共施設再編までにできることから）。

まちの将来像の実現

- 例
- コンパクトで、子どもからお年寄りまで“歩いて暮らせる”まち
 - 若い世代が住まい、働く・学ぶなどの活動をするまち
 - 多世代が自然に交流する、出会い・ふれあいのあるまち

3. 将来のまちの姿（機能の配置等）を考える視点

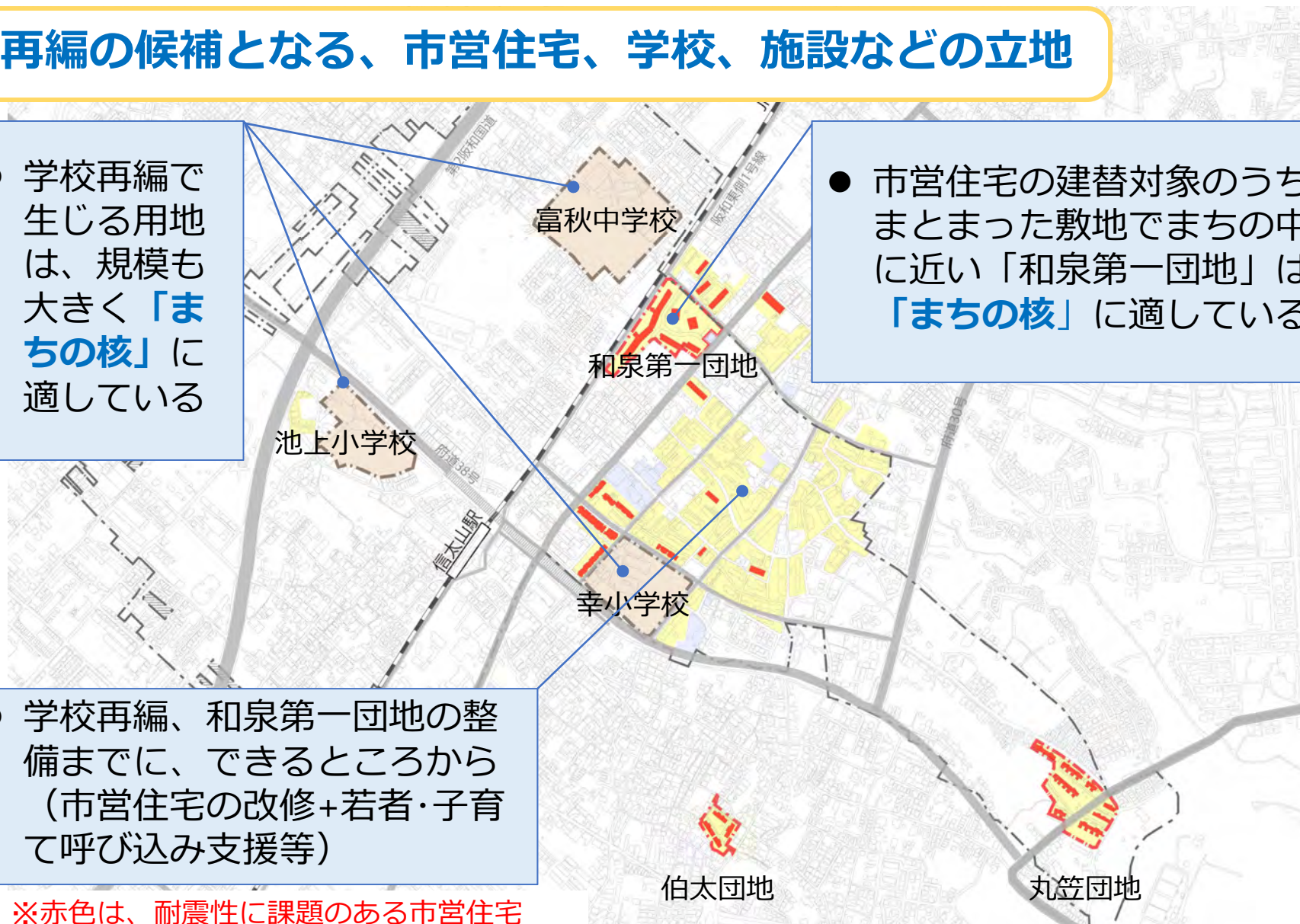
再編の候補となる、市営住宅、学校、施設などの立地

- 学校再編で生じる用地は、規模も大きく「**まちの核**」に適している

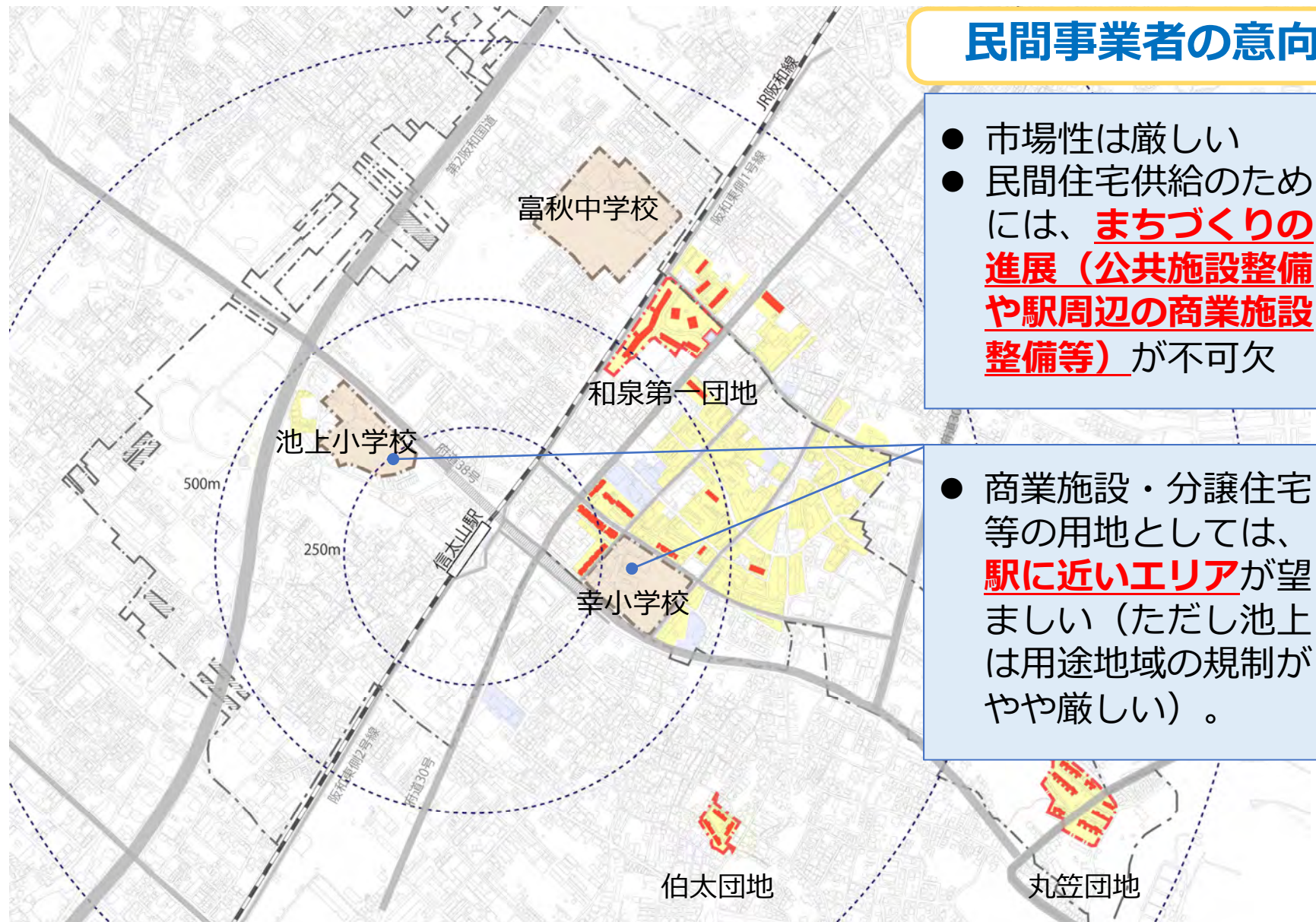
- 市営住宅の建替対象のうち、まとまった敷地でまちの中心に近い「和泉第一団地」は、「**まちの核**」に適している。

- 学校再編、和泉第一団地の整備までに、できるところから（市営住宅の改修+若者・子育て呼び込み支援等）

※赤色は、耐震性に課題のある市営住宅



3. 将来のまちの姿（機能の配置等）を考える視点



3. 将来のまちの姿（機能の配置等）を考える視点

まちの文脈（歴史・魅力資源等）を活かす

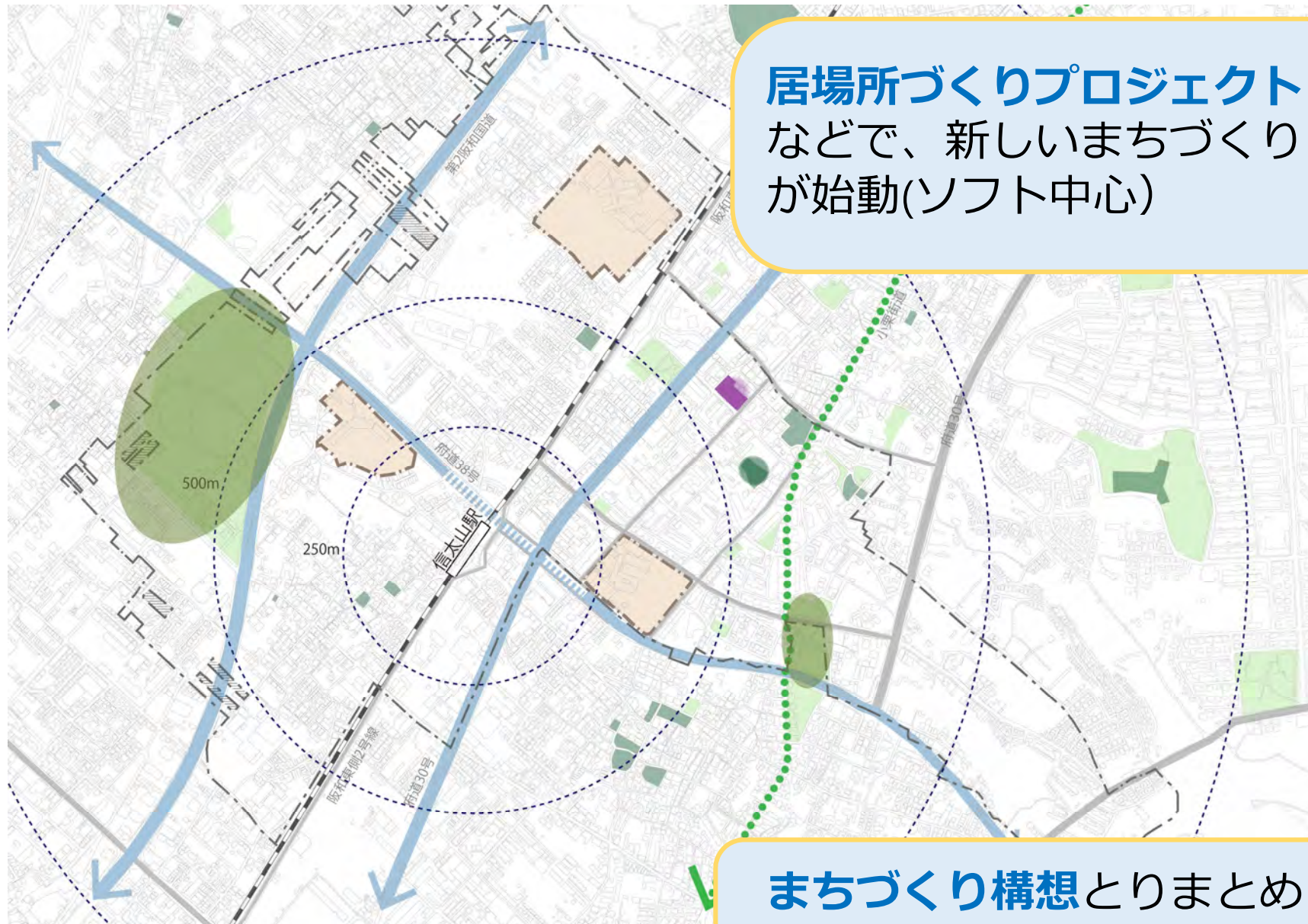


3. 将来のまちの姿（機能の配置等）を考える視点

まとめ



4. 段階的なまちづくりのイメージ 【現在】



4. 段階的なまちづくりのイメージ【第1段階】

※あくまでイメージです



4. 段階的なまちづくりのイメージ【第2段階】

※あくまでイメージです

まちの核

教育、多世代交流拠点

- ・施設一体型義務教育学校
- ・市営住宅の建替え
併せて公園の再整備

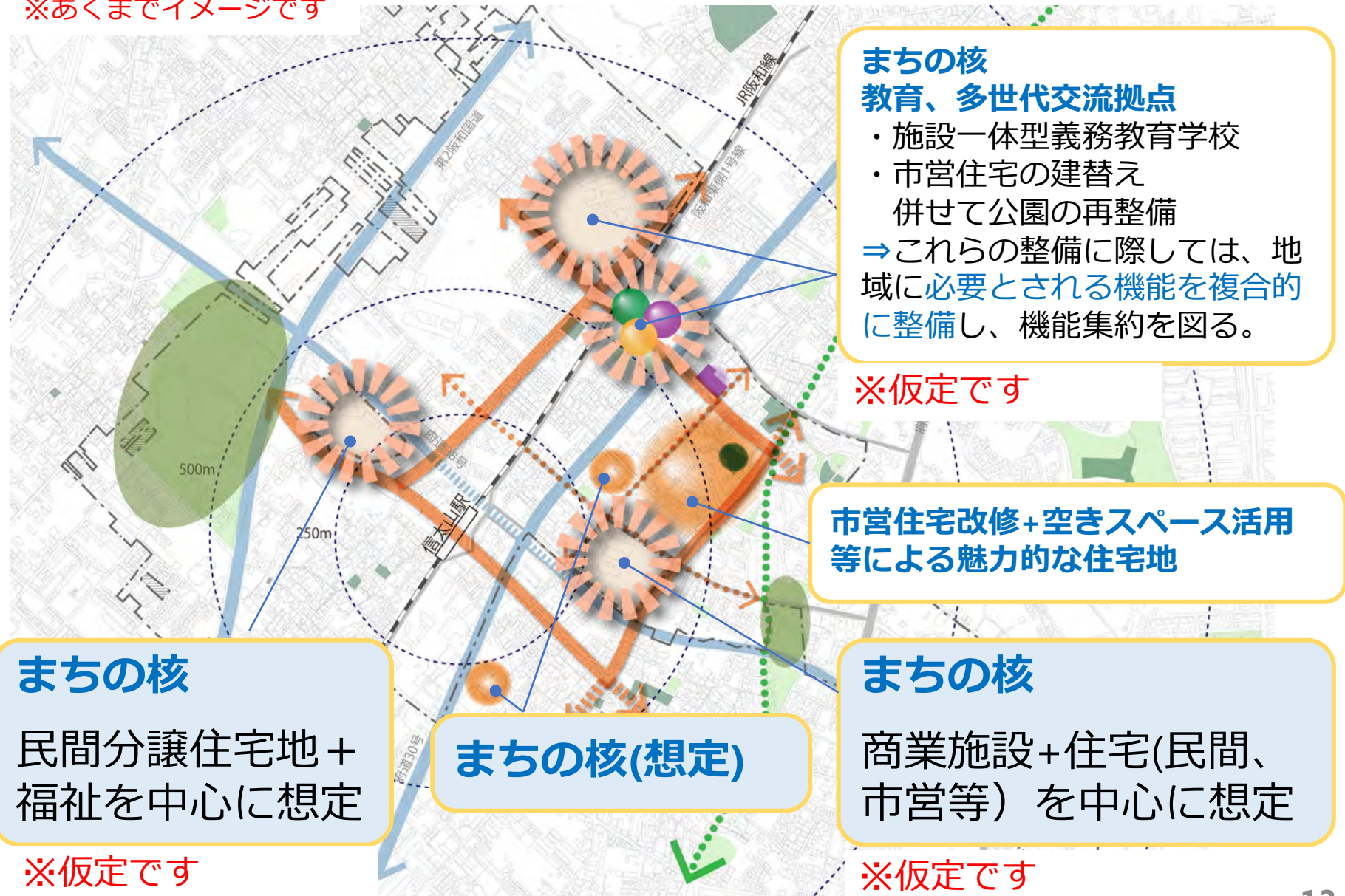
⇒これらの整備に際しては、地域に必要とされる機能を複合的に整備し、機能集約を図る。

市営住宅改修+空きスペース活用
等による魅力的な住宅地

※仮定です

4. 段階的なまちづくりのイメージ【第3段階】

※あくまでイメージです



4. 段階的なまちづくりのイメージ【第4段階】

※あくまでイメージです

